

平成29年度

大津商業高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・ 基本的な生活習慣を確立し、地域社会とも連携を図りながら、生徒の健全育成に努める。
- ・ 個に応じた学習指導や進路指導の充実に努める。
- ・ HR活動や生徒会・部活動への積極的な参加により生徒の自主性を養う。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	校長は、学校経営方針を教職員全員のものにして、教育活動を推進している。			
	教育目標、教育方針、指導内容や評価の基準等を明らかにし、地域に根ざした開かれた学校づくりに努めている。			
2 学習指導	個に応じた学習指導を進め、基礎・基本の定着を図り、学力の向上に努めている。			
	教務部と各教科、学年との連携を密にし、授業改善に努め、生徒の学習意欲を喚起し、学習効果を高めている。			
3 生徒指導	心身の健康の大切さを理解させ、規則正しい生活習慣の確立を目指す指導に努めている。			
	挨拶や交通マナー等の規範意識の確立に、生徒一人ひとりが主体的に取り組めるよう努めている。			
	いじめの未然防止・早期発見に取り組み、いじめのない学校づくりを進めている。			
4 進路指導	望ましい職業観・勤労観を育み、就職・進学指導の充実に努めるなど、生徒の進路実現に努めている。			
	適切な進路情報を提供しつつ、生徒が進路実現に主体的に取り組む姿勢を確立させる指導に努めている。			
5 特別活動等	生徒会行事やボランティア活動などの自主活動の活性化や充実に努めている。			
	部活動の活性化や充実に努めている。			
6 学校図書館	図書館利用や読書の啓発を行っている。			
	授業等で利用しやすく、学習センターとしての役割を果たしている。			
7 保健・安全指導	生活環境や生活様式の変化に対応し、教育相談や特別支援教育の充実に努め、心身の健康を保持・増進出来るよう指導している。			
	生徒の健康管理と病気の予防に努め、事故等への対応を適切に行う体制を整えている。			
8 人権教育	LHRを活用して、人権意識を高め、いじめや差別を許さない明るく生き生きした生徒を育成している。			
	3年間を見通した人権教育の実施計画を策定し、各学年に応じた人権教育を行っている。			
9 環境教育	ゴミの分別、空き教室の消灯等、生徒への啓発活動を図り、環境教育を積極的に行っている。			
	地球環境を考えた日常生活に心がけ、環境美化活動を積極的に行っている。			
10 事務・管理	文書管理を適切に行っている。			
	施設設備の整備、充実、保全に努め、それら施設・設備の計画的な活用に努めている。			
11 その他 学校の取組み	「専門高校プロフェッショナル人材育成事業」等を十分活用して効果的な教育活動を推進している。			
	本校の教育活動を中学生や地域に積極的に情報発信し、広報に努めている。			

- (注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表  
 10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価) A B C Dの4段階評価で示す。  
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価) A B C Dの4段階で示す。  
 ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。  
 ・A B C Dの基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。

学校のURL : <http://www.daisho-h.shiga-ec.ed.jp/>